

茅ふきたより

巻頭インタビュー

父が得た技術を自分も習得し、
次に伝える役割を実感。

松澤朋典さん 茅葺き師

長野県北安曇郡小谷村（おたりむら）生まれ。35歳

株式会社小谷屋根 代表取締役



▼安曇追分の茅葺き現場にて



も く じ

01	巻頭インタビュー 松澤朋典さん
02	会からの報告 第5回茅葺きフォーラム
07	新理事の紹介 吉村徳男

07	おくやみ
08	イベント情報
	茅葺き屋、NPO法人茅葺き文化研究会

東京の専門学校を卒業して、そのまま建設会社で働いていました。ある日、父から電話がかかってきたんです。「ウチに戻って来ないか」と。

自分のしている仕事を教えたが、一緒に仕事をして10年あるかどうかは分からないという。父は、そんなふうに言いよる人ではなかったのですが、自分は電話を聞きながら何となく父の思いが嬉しく感じられて。ちょうど会社でも一つの転機があって、自分も心を決めるのは早かったですね。父が62歳で、自分は25歳の時でした。

祖父の代からの茅葺き仕事で、小さいころから現場の足場の下で手伝いをさせられたことも何度かありました。煤でよごれる仕事だと思っていましたが、嫌ではなかったです。父は仕事に出かけると、終わるまで何日も家に帰りません。母もせつせと畑や家の仕事をしています。自分は、働く両親のそんな背中を見て育ちました。そして東京で入社の面接試験では、自分の尊敬する人物を聞かれて、両親の名がすいっと出ました。誰よりも自分が知っていて、最も信頼して誇れる人。とっさに鮮明に浮かんだのが、両親だったんです。

父が祖父の仕事を手伝いはじめたのは、15歳からでした。それが、あたりまえだったといえます。当時、小谷の集落に茅葺きの親方は11人いたそうです。屋根葺きの時には、その他に手伝いの人や茅無尽（結のようなもの）の人など、ずいぶん大勢でした。屋根を葺き替えるのは、その家の当主一代に1回だけ。だから葺き師は、60年間を持たせる技量が問われるわけです。父は、一人前になるために10年かかる、と話します。

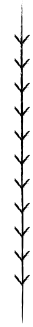
仕事は、自分が父からすべてを吸収するしかない決めて、一挙一動を盗み取るような日々でした。休みは必要ない。無駄を省き、父から言われた作業でも、から手では絶対行かない。すべてを自分で段取りしつつ、父の後ろ姿を追う毎日の、ほぼ10年です。

小谷や白馬周辺地域では、コガヤ（カリヤス）で屋根を葺きます。屋根材として密なので、深い積雪にも耐えます。屋根は雪でひどく傷まないように角をおさめ、寄せ棟やカブト造りにしますが、見た目のやわらかさも大事にしています。そこに伝統的な技術の継承が必要とされ、今は父や兄と共に、若手の育成にも取り組んでおります。（聞き手坂本善昭）

会からの報告

第5回茅葺きフォーラム 「ヨシ原とヨシ葺き」その循環の再生

平成26年6月14日（土）フォーラム



会場となった慶雲館は、明治天皇の行在所として実業家の浅見又蔵により建てられた迎賓館。その慶雲館のホールにて、「ヨシ原とヨシ葺き」その循環の再生」というテーマのもと、第5回茅葺きフォーラムが開催されました。琵琶湖畔の茅葺きの特徴である、ヨシ文化の循環とその再生について、様々な方からお話

を伺いました。

茅葺きフォーラムには、全国各地から約120名の方が集いました。会場のホールだけでなく、1階ではパネル展示をしていただき、賑わいがあるフォーラムとなりました。

フォーラムは、当協会安藤邦廣代表理事と、開催地の長浜市藤井勇治市長の開会挨拶で始まりました。また、開会には、フォーラムの共催団体である公益社団法人長浜観光協会の副会長津泰寿様も駆け

つていただきました。

第1セッションは「琵琶湖をめぐるヨシ原と茅葺きの現在と未来」ということで、当協会米山淳一理事をコーディネーターとして始まりました。

最初の講演は、滋賀県立大学人間文化学部教授の濱崎一志さんに「湖北の茅葺きの特徴と保全活用」というタイトルで、琵琶湖の北、湖北地方に見られる余呉型民家の特徴や、研究室として学生たちと長年取り組んでいる、彦根市男鬼町での空き民家を活かした地域活性化プロジェクト「男鬼楽座」についてご講演いただきました。

続いて、同じく滋賀県立大学環境科学部准教授の野間直彦さんに「ヨシ原と茅

原の利用が作る環境 その保全と再生」というタイトルで、2006年に重要文化的景観第1号として選定された「近江八幡の水郷」の一部である、琵琶湖と、見学会で巡る西の湖（琵琶湖最大の内湖）のヨシ原や、そこに生きる生物及び文化についてお話ししていただきました。

前半最後は、茅葺き職人である葺留の真田陽子さんに「琵琶湖のヨシ葺きの技術の継承」というタイトルで、西の湖のヨシの刈り取りから葺き替えまでの技術、また、火入れなどの保全について、たくさん画像とともに葺留の仕事の紹介をしていただきました。真田さんが最初にヨシに魅了されたきっかけなど、フォーラム参加者が興味をもつ話が大変



▲慶雲館



▲フォーラム会場風景



▲パネル展示



▲安藤邦廣代表理事



▲藤井勇治市長



▲濱崎一志さん



▲米山淳一理事



▲真田陽子さん



▲野間直彦さん

多かったです。

前半終了後は、恒例のティータイム。長浜市の皆さんが準備してくださった季節の美味しいお菓子をいただきながら、他の参加者と情報交換を楽しみました。会場である慶雲館は、建物やお庭が素晴らしい、建築に携わっている参加者が多いため、皆さん興味津々で見学をしていました。

ティータイム終了後、第2セッション「各地からの報告」が、当協会上野美帆理事をコーディネーターとしてスタートしました。

まずはじめは、東邦大学理学部生命圏環境科学科准教授の西廣淳さんに「霞ヶ

浦湖岸浮島湿原（妙岐の鼻）における萱利用と生物多様性」というタイトルで、霞ヶ浦にある「妙岐の鼻」と呼ばれる湿原における植物の分布と、「茅刈り・モノハシ（屋根材になる植物）と藪類の生育」「絶滅危惧種の存在」の三者の関係を野外調査・野外実験によって検討し、伝統的な茅利用（茅刈り・野焼き）が、絶滅危惧種の生育を支える重要な働きをしていることが明らかになった、と報告していただきました。

茅葺きフォーラム最後は、ニシオサプライズ・屋根晴の西尾晴夫さんから、「国際茅葺き協会南アフリカ大会の報告」というタイトルで、南アフリカで開催された国際茅葺き協会の大会について報告がありました。国際茅葺き協会は、ヨーロッパを中心とした国々が加盟しており、当協会も日本の代表として加盟しています。いずれ日本で大会が開催する際にはホストを務める必要があるの

で、その際の参考となる話を多く聞くことができました。

会場との質疑応答も盛り上がり、名残惜しいですが閉会。同じく慶雲館で開かれた情報交換会も、各地の茅葺き職人さんや学生たちの熱いメッセージを、地元の美味しい料理と参加者が持ち寄った全園のお酒をいただきながら聞き、大変盛り上がりしました。

（理事 内海美佳）

▼大広間での情報交換会



▲ティータイム



▲西廣淳さん



▲上野美帆理事



▲西尾晴夫さん

第5回茅葺きフォーラム「ヨシ原とヨシ葺き その循環の再生」

■6月14日（土）フォーラム

総合司会：内海美佳（日本茅葺き文化協会理事）

13:30 開会あいさつ

13:45 第1セッション「琵琶湖をめぐるヨシ原と茅葺きの現在と未来」

コーディネータ：米山淳一（地域遺産プロデューサー・日本茅葺き文化協会理事）

「湖北の茅葺きの特徴と保全活用」 濱崎一志（滋賀県立大学人間文化学部 教授）

「ヨシ原と茅葺きの利用がつくる環境 その保全と再生」

野間直彦（滋賀県立大学環境科学部 准教授）

「琵琶湖のヨシ葺きの技術の継承」 真田洋子（茅葺き職人・葎留）

15:15 ティータイム 情報交換

15:45 第2セッション「各地からの報告」

コーディネータ：上野美帆（まちむら交流きこう・日本茅葺き文化協会理事）

「霞ヶ浦湖岸浮島湿原（妙岐の鼻）における萱利用と生物多様性」

西廣淳（東邦大学理学部生命圏環境科学科 准教授）

「国際茅葺き協会南アフリカ大会の報告」

西尾晴夫（茅葺き職人・ニシオサプライズ）

17:30 閉会

18:00～20:00 情報交換会

■6月15日（日）見学会 8:30～16:00

<見学Aコース>

八木浜集落→西徳寺→重要文化財辻家住宅→長浜黒壁スクエア

13:30 解散

<見学Bコース>

Aコース + 西の湖（近江八幡市）のヨシ原、ヨシ地 水郷巡り

16:30 解散

会からの報告

平成26年6月15日(日) 見学会



▲中村家住宅主屋

見学地は、現在も8軒が茅葺きのまま残る長浜市八木浜集落。現地では、「茅葺き」ではなく、「ヨシ葺き」と呼ばれています。最も規模の大きな中村家住宅（国登録有形文化財）を見学しました。主屋、表門、土蔵、馬小屋は全て江戸時代中々後期の建築。同時代の石垣と船着場も残され、屋敷構えを特徴付けています。琵琶湖内湖からの水路（堀）を利用して、ヨシや様々なものを運び入っていた頃の様子が偲べれます。



▲西徳寺本堂

次の見学先は木之本町赤尾の浄土真宗西徳寺（国指定重要文化財）。正徳3年（1713）に再建された本堂は、平成2～4年の解体修理時に復原が行われ、



▲中村家住宅の船着き場

続いて西浅井町祝山の辻家住宅（国指定重要文化財）。桁行11間の堂々としたヨシ葺き民家。19世紀前期頃の建築と推定され、長屋門、土蔵があり、屋敷構えが残っている元庄屋屋敷。障子は屋久杉、柱は樺と贅沢な木材が使われています。台所部分をはじめ、ほとんど改築されずに残されています。流しなども建築当時から使われるものかもしれません。

ここで午前の見学は終了。一旦長浜へ戻り、Aコース参加者は解散。Bコース



▲西徳寺庭園

全体に質素な佇まいの妻入り民家風です。その際、屋根は琵琶湖と青森のヨシを使って葺き替えられました。背面の山の岩盤を利用した自然庭園も特徴的で美しかったです。



▲B級グルメ「サラダパン」

のみがお昼のお弁当を食べながら西の湖へ向かいました。途中、ご当地B級グルメとして人気の「サラダパン」の販売も行われ、一同が和みました。



▲辻家住宅



◀ヨシ ▲奥田さんの案内による西の湖巡り

西の湖は、琵琶湖にかつてあった37の内湖のひとつ。2箇所のヨシ地(ヨシ原)が、ふるさと文化財の森に設定されています。地元の奥田修三さんの案内で、舟で西の湖を巡りました。「ヨシとアシ(オギ、オニガヤ)は厳密に言えば別の種類」、「ヨシは1本で成長し、アシは節から枝分かれて伸びる」、「近年水位が下って



▲清見寺

アシ(オギ)が増えた。オギは水に弱く長持ちしない」、「ヨシ地の奥にタマミドロと呼ばれる藻(こけ)が育ち、魚の産卵場所になっている」など、たくさんのお話を伺いました。西の湖の今昔を知り尽くす奥田さんのお話は多くの示唆に富んでいます。

舟を降りて近江八幡市円山町の清見寺へ向かいました。清見寺は浄土宗の小規模寺院で、享保2年(1717)の建築。重要文化的景観の第1号となった「近江八幡の水郷」の構成要素でもあります。近年の修理で、西の湖のヨシで屋根を葺き替えました。円山町の集落は、背後の円山に沿って放射状に宅地が広がり、山から宅地↓作業場↓ヨシ原↓内湖の順に



▲ヨシ問屋の作業場



▲円山を背にヨシ原を望む

琵琶湖と繋がっています。当地では、江州ヨシまたは円山ヨシと呼ばれる良質なヨシを生産していました。ヨシ問屋であ



▲近江八幡の重要伝統的建造物群保存地区

る西川嘉右衛門商店の作業場で、4メートル以上のヨシの束を目の当たりにしました。

帰路途中、近江八幡の重要伝統的建造物群保存地区を急遽少しだけ見学して本日の見学会は終了。17時15分頃、JR近江八幡駅にて解散。見学会は、多くのヨシ葺き民家や寺院とヨシ地の見学を通して、ヨシの循環を実感する充実したものでした。各所でご案内くださった皆様、この場を借りて心より感謝申し上げます。

(監事 山城 統)



▲ 辻家住宅の主屋と土蔵 ▼ 西の湖のヨシ原



新理事の紹介

吉村 徳男

茅葺き師

私の住む大内宿は、正保4年

(1647)に整備された下野街道の主要宿駅です。町並みの特徴は宿場を中心とした南北500m、東西200mの範囲にあり、現在も宿場当時の面影をよく残し、旧街道の両側に45戸の主屋が立ち並び、茅葺き屋根はその内、現在33戸あります。慶応4年(1868)の戊辰戦争でも戦火を免れ、明治17年の会津三方道路の開設により幹線道路からはずれた大内宿は、その景観を今に残し、昭和56年4月18日に国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されました。



私はこの時から大内宿保存会の事務局

を引き受け、保存活動に携わってきました。茅葺き屋根の維持管理は、基本的には個人が行いますが、屋根葺き替えが負担に思われないよう、保存会として、足場資材等の備品の貸し出しや、村人足による茅刈などでの茅の確保等、屋根葺き替えがスムーズに出来るようにしてきました。しかし、茅葺き職人の高齢化により職人がいなくなるのは時間の問題でした。行政側に働きかけてもなかなか難しく、私がやらなければ保存はできないと思い、当時勤めていた役場を辞め、茅葺き職人の(故)小椋八十吉氏に弟子入りし、茅葺き職人の道を歩み始めました。9年目に親方から一人前に認められたので、次に自分のすることは、村の青年たちに技術を教えることだと、廃校になった分校の教室に

屋根葺き練習場を作り、屋根葺き技術の勉強会を毎週水曜日の夜午後7時から開き、村の青年たちに教えています。私たち大内の者は、屋根葺きを生活技術の一つとして覚え、多くの者が屋根葺き替えに携わって茅葺き屋根を守っています。

おくやみ

平成25年10月31日に本会理事の湯田雄二さん(前福島県下郷町長)が逝去されました。72歳でした。

湯田さんは平成13年9月から平成25年9月まで下郷町長を務められ、大内宿をはじめとして、茅葺き文化の継承と発展に尽力されました。当会では設立当初から理事として、各地で開催された茅葺きフォーラムにもほとんど出席され、茅葺き集落をもつ自治体の首長として、茅葺き文化の発展に大きな役割を果たされました。ここに生前の本会への多大なる貢献に深く感謝の意を表すとともに謹んで哀悼の意を表します。



平成26年7月15日本会正会員の菅原伊佐男さん(新潟県村上市)が逝去されました。81歳でした。

謹んでお悔やみ申し上げますとともに心よりご冥福をお祈りいたします。

菅原さんは6月の長浜市での茅葺きフォーラムに参加され、皆さんとおおいに語らい2日間を過ごされました。それがみなさんのお別れになりました。ここに菅原さんから6月に送られてきた写真に添えられた手紙をご紹介します。

前略

いつもお世話様です。
この写真は私のふるさと旧朝日村の奥三面集落にあったものを国道七号線沿いにある道の駅のところに移築したものです。県営ダムの建設にともない水没する集落にあった建物で、県の文化財に指定されている建物です。私もまだ若く65才頃のときのものです。おかげ様でこの五月で茅葺き職人として66年勤めあげました。

81才の今日まで茅葺きにかかわれたことは本当に幸せなことだと感謝しております。皆々様もどうぞ茅葺き屋根が後世まで残りますようにこれからもご活躍を期待しております。

平成二十六年六月

菅原伊佐男拝



こうべ茅の環ネットワーク 「茅葺き現場体験会」

神戸市登録文化財 大前家住宅（専用住宅）移築現場にて茅葺き屋根工事の体験会です。茅葺き職人が働く本物の現場に、地下足袋持参で参加しませんか？

日 時：2014年09月20日（土）21日（日）
10：00～16：00 各日開催。連続参加可能
会 場：大前家住宅（神戸市北区道場町日下部）
アクセス：神戸電鉄三田線「道場南口」駅より徒歩10分
参加費：2000円/日（保険代含む）
事前予約、お問合せ：
こうべ茅の環ネットワーク
担当：阿部（090-3913-9251）
HP：<http://www.kayanowa.net>

茅葺き屋根施工：淡河かやぶき屋根保存会くさかんむり
協力：あかい工房・神戸市北区役所・大前延夫氏（施主）・他

NPO法人石川県茅葺き文化研究会 「茅葺きでバス停を作る」

金沢市内内川地区で、コミュニティバスのバス停を「茅葺き」で作るプロジェクトです。

日 時：2014年09月27日（土）・28日（日）・10月4日（土）
・5日（日）（4日間）
会 場：内川公民館前（金沢市金沢市三小牛町20-1-10）
申込み：参加希望者はメールでお申し込みください。

tao@spacelan.ne.jp

件名を「茅葺きでバス停を作る」とし、

①氏名②年齢③連絡先を明記ください。

お申込み後、詳細スケジュールをご案内します。

締切り：09月20日（土）

NPO法人石川県茅葺き文化研究会 「里山で楽しむ茅葺き体験」

医王山麓の里山・キゴ山で、茅場候補地の自然観察・茅刈り・小さな茅葺き小屋作りを通じて、キゴ山の自然と茅葺きの文化を1泊2日で体験してもらいます。

日 時：2014年10月25日（土）～26日（日）
25日13：00集合 / 26日12：30解散
会 場：キゴ山ふれあいの里（金沢市小豆沢町ヲ4）
TEL：076-229-0583
（宿泊：キゴ山ふれあいの里研修館）
定 員：30名
参加費：30歳以上2,314円、30歳以下1,814円
（宿泊費・食費含む）
申込み：参加希望者はメールでお申し込みください。
tao@spacelan.ne.jp
件名を「里山で楽しむ茅葺き体験」とし、
①氏名②年齢③連絡先を明記ください。
お申込み後、おって詳細スケジュールをご案内します。



【10月25日（土）】
13：10～13：30 レクチャー
13：30～16：30 茅刈り体験、自然観察
16：30～19：00 入浴、夕食
19：00～20：00 紙芝居、交流タイム、以降自由時間
【10月26日（日）】
09：10～12：00 茅葺き体験

◎みなさんの情報をお寄せ下さい！
茅葺きについてさまざまな情報とご意見・ご要望をお待ちしております。
茅刈り、葺き替え情報大歓迎。事務局宛までお寄せ下さい。

茅ふきたより 第14号

2014年8月31日発行（非売品）

発行：一般社団法人日本茅葺き文化協会
編集：茅ふきたより編集委員会
一般社団法人日本茅葺き文化協会
〒300-4231 茨城県つくば市北条184
TEL/FAX 029・867・5829
E-mail info@kayabun.or.jp
URL <http://www.kayabun.or.jp>

（編集後記）
今年の茅葺きフォーラムでも出会いあり、再会あり。仲間達と熱く語り合った2日間でした。そして別れもありました。今思えば菅原さんはみんなにおれと別れを告げにいられていたのかもしれない。いつでも気さくに色々なことを教えてくださった湯田さんとも昨年大内宿でお別れしました。寂しくてたまりませんが、これからどこかでみんなを見守っていてください。ありがとうございました。（弥）